

研究機関名：東北大学

受付番号： 2013-1-240
研究課題名 乳がんのバイオロジーに基づいた治療費に関する調査
研究期間 西暦 2013 年 9 月（倫理委員会承認後）～ 2015 年 9 月
対象材料 <input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名 ） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名 ） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 診療支援システムおよび医事データ ）
上記材料の採取期間 西暦 2008、年 2 月～ 2013 年 7 月
意義、目的 乳がんは日本女性の罹患するがんのトップであると同時に、40 代の罹患率が高く、女性の社会進出が際立つ現代において、女性にとって乳がんの予防や診断・治療に関わる費用を考慮した上でのライフプランニングが必要であると考え。情報化が進む昨今、インターネットなどを通して、国内統計、公的または私的保険組織の資料などで、おおまかな乳がんの診断および治療費を比較的身近に把握することが可能となったが、乳がんの医療費は、がんの病期や生物学的性質により大きく差があり、それらを詳細に示している先行文献や調査は少ない。国外でも医療費の高騰に伴い、傷病別医療費（COI: cost of illness）の研究は進んでいるが、生物学的性質からの医療費調査報告はされていない。 本研究では乳がんのバイオロジーや病期に基づいた治療費を明確にするため、東北大学病院を受診した過去の乳がん症例を用いて、カルテ、医事データより各々の生物学的性質および診断病期による医療費を調べ、分析・検証する事を目的とする。
方法 まず初めに、本学乳腺外科の所有する既存の乳がん患者リストは、すでに生物学的性質の情報も含まれているため、それらの中から対象となる症例をピックアップし、分析に用いる医療費の入力を行う。 観察対象は40歳から69歳までの女性で、2008年2月から2013年7月までに乳がんと診断された症例とする。今回の医療費の調査は、乳がんの初期治療に絞った調査を行う。また、非浸潤性乳管癌（DCIS）については、本研究では除外する。 具体的な調査方法は、IDによる医事データの検索作業を行い、乳がんに係る医療費（入院・外来）を全て含め入力を行う。その際、他院でフォローアップを行なっている患者は除外する。尚、外来における処方薬剤は、全て院外処方であるため、診断支援システムにおける処方薬剤のデータから薬価を求め、周辺薬局における調剤技術料などの調査を行った上で算出する。これらのデータは、乳がんの診断日から一年ごとに合計され、対象期間から最長で5年間のデータを得る事になる。また、今回の調査は初期治療のみに特化するため、転移、再発が確認され、治療方針が変更になった場合には、それ以降の医療費は考慮しない。 これらのデータ入力作業が終了後、生物学的性質（ルミナル A、B、HER2、トリプルネガティブ）に分けて統計処理を行い、医療費に関する統計量を算出し、有意差検定を行う。また、これらのデータは研究代表者がこれまで行ってきた、モデル分析のデータとして利用可能であり、これらの代表値を用いて、費用対効果分析の応用に用いることで、乳がんの生物学的性質を加味した乳がんの長期的な費用対効果の研究の利用にも期待される。

問い合わせ・苦情等の窓口

〒980-8575

宮城県星陵町2-1

東北大学医学部大学院医学系研究科

画像診断学分野

石橋忠司

佐藤美帆

022-717-8683

meifan58@med.tohoku.ac.jp